

## 平成25年度 第3回経営協議会議事録

日時 平成25年12月3日(水) 15時30分から17時00分

場所 本部棟第1会議室

出席者 【委員】 古山学長(議長)

荒巻委員、位高委員、乾委員、小林委員、齊藤委員、堀場委員  
矢嶋委員、森迫委員、竹永委員、大谷委員、山下委員、松野委員

【陪席者】 松室学長補佐、

総務企画課長、人事労務課長、評価・広報課長、財務課長

議事に先立ち、学長より前回(平成25年度第2回)の議事録について確認が行われた。

### 審議事項1. 国立大学法人京都工芸繊維大学職員給与規則の一部改正について

山下財務・労務担当理事から、国立大学法人京都工芸繊維大学職員給与規則の一部改正について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

### 審議事項2. 国立大学法人京都工芸繊維大学非常勤講師就業規則の制定について

山下財務・労務担当理事から、国立大学法人京都工芸繊維大学非常勤講師就業規則の制定について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

### 審議事項3. 重要な財産(土地)の処分の検討について

財務課長から、重要な財産(土地)の処分の検討について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

### 審議事項4. 大学の機能強化の方向性について

古山学長から、大学の機能強化の方向性について議案書に基づき説明があり、意見交換を行い、今後も継続して検討していくことが確認された。

本件に関連し、委員より以下の質問・意見があった。

- ・学部と修士の6年一貫が特徴的な取り組みであるという印象を受けるが、博士後期課程に関してはどのように考えているのか。
- ・海外に比べ日本では、博士後期課程修了後に研究開発機関などに就職したあとは伸びがよくないように感じるが、貴学の博士後期課程修了者の就職状況はいかがか。
- ・企業ではドクターを必要としているが、外国人と比べ日本人は相対的にマネジメント力が弱いことが問題である。
- ・ポスドクの方は自分のやりたいことに対し意欲的ではあるが、企業の求める研究課題等とは合致しないこともあることから採用には至らない。研究やマネジメントにおいて、フレキシビリティのあるポスドクであれば企業も採用しやすいのではないか。
- ・企業の給与体系は博士号を持っていれば高いというわけではないので、博士取得者からは魅力を感じないのかもしれない。
- ・企業にとって修士の学生は魅力的であるが、学部生は専門以前の基礎的な能力の欠けている人が多く、企業に入ってから再教育しなければならないケースが見受けられる。
- ・年棒制導入による業務評価は、成果が出るまで長期間かかる場合もあるが、具体的にどのように業務評価等を実施するのか。

#### **報告事項1. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について**

大谷評価・学生担当理事から、平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について議案書に基づき報告があった。

#### **報告事項2. 革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）について**

古山学長から、革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）について議案書に基づき、報告があった。

#### **報告事項3. 三大学教養教育共同化施設建設に係る寄附の受け入れについて**

古山学長から、三大学教養教育共同化施設建設に係る寄附の受け入れについて議案書に基づき、報告があった。

#### **報告事項4. 本学の主な出来事について**

古山学長から、本学の主な出来事（平成25年4月～平成25年11月）について議案書に基づき、報告があった。

#### **報告事項5. 教員・学生の受賞状況について**

古山学長から、教員・学生の受賞状況について（平成25年4月～平成25年11月）について議案書にもとづき、報告があった。

#### **配付資料**

- ・平成25年度第3回経営協議会議案書